



第 139 号

宮城県亶理農業改良普及センター

〒989-2301

亶理郡亶理町逢隈中泉字本木9

TEL 0223-34-1141

FAX 0223-34-1143

E-mail wrnokai@pref.miyagi.lg.jp

http://www.pref.miyagi.jp/wr-nokai/



令和元年度 宮城県農業改良普及職員協議会 写真コンクール応募作より

不測の事態への備えを！

宮城県亶理農業改良普及センター 所長 山村孝志

新型コロナウイルスが、日本及び全世界で猛威をふるっています。今年は、暖冬の影響により記録的な早さで桜が開花したものの、その可憐な花を愛でる余裕もありませんでした。私たちは今、新型コロナウイルスとの戦いという、人類の歴史の大きな転換点に生きていることを痛感せずにはられません。手洗いやうがい、マスクなど考えられること全てに取り組んで、感染のリスクを最大限排除していきたいものです。

さて、農業経営においても新型コロナウイルスに限らず、気象災害や鳥インフルエンザなど、いつ、どこで、なにが発生するか分からない状況にあります。そのため、災害があったとしても最小限の被害で食い止めるため、強風時の施設の強度はど

うか、大雨時のほ場の排水は大丈夫か、などの点検を怠らないようにしたいものです。昨年、大きな被害をもたらした台風19号(東日本台風)を教訓に、経営上の様々なリスクに対して農業保険(収入保険、農業共済)に加入するなど、不測の事態に対して、日頃の備えを万全にしておくことも重要ではないでしょうか。

あの忌まわしい東日本大震災の発生から9年が過ぎ、皆様方の血のにじむような努力によって、津波被災地の復興が進んできました。今年度は、宮城県震災復興計画の最終年に当たり、普及センターでは、亶理・名取地域の復興の総仕上げに向け、職員一丸となって活動を展開してまいります。

えんげい王国 亘理・名取 のさらなる躍進

普及センターでは、魅力ある亘理・名取地域の農業・農村の再興に向けて、競争力のある農業経営の実現を目指します。

今年度は、「宮城県震災復興計画（10年間）」の最終年にあたることから、下記の4つの重点活動目標を掲げ、4つのプロジェクト課題（緊急重点的に取り組む課題）と普及センター活動等について、関係機関と連携を図りながら、効率的かつ効果的な普及活動を展開します。

－ 令和2年度重点活動目標 －

- (1) 地域の特性を活かした収益性の高い園芸の再興
- (2) 次世代につなぐ土地利用型農業の確立
- (3) 地域農業を支える担い手と後継者の育成
- (4) 農村地域の資源を活用した地域活性化

〈令和2年度 プロジェクト課題 活動紹介〉

次代につなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化

管内の土地利用型法人においては、経営発展のみならず、将来の経営継承が課題となっており、普及センターではこの課題に取り組んでいる岩沼市の土地利用型法人を支援しています。

第一に経営継承に必要な人材確保の取組や人材育成に係る計画の策定、第二に生産活動の効率化を図り、農作業のノウハウやデータ等を次代に引き継ぐ経営・生産管理システムのフル活用、そして、第三に新技術導入等による農産物収量の向上に向けた取組を支援しています。こうした取組みにより、法人経営の高度化を図り、経営をスムーズに次代につなげるモデル経営体を育成していきます。



大区画ほ場での収穫風景

大規模水田営農に対応した水稲直播栽培技術の向上と実践

東日本大震災後、ほ場整備による水田の大区画化と担い手への農地集積が進み、大規模経営に応じた省力化技術として水稲直播栽培の導入が増えています。管内の直播栽培取組面積はここ10年間で、約7倍増加しておりますが、「雑草対策」や「肥培管理」等は移植栽培とは異なる管理が必要です。

そこで普及センターでは、令和元年度に直播栽培における技術的課題の改善に向けて「直播栽培勉強会」を立ち上げ、生産者同士の情報交換や栽培技術の検討を行っています。今年度も勉強会の開催や直播栽培先進地の視察を行いながら、直播栽培志向生産者の技術確立・定着に向けて支援していきます。



「直播栽培勉強会」の様子

新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産

「にこにこベリー」は、管内では平成30年から試作が始まり、今年で3作目になります。本格デビューを迎えた令和2年産の作付面積は、管内で約3.0haとなっています。これまでの作付けから、無理な早植えをすると中休みしてしまうことや、3月以降は収穫量が増え、労力の負担が大きくなる特徴がみられました。活動の中ではこれら品種の特徴を適切に把握して、経営の中に取り入れていけるよう、情報提供していきます。内容は育苗管理や年内出荷時期に合わせた夜冷育苗時期の提案、収穫調製に関する時間等です。生産者の方々が「にこにこベリー」を労力に合わせた面積で、適切な作付け時期を選択できるよう、各方面から支援します。



巡回指導の様子

「シャインマスカット」の栽培技術力向上による生産拡大

新たな地域特産品の1つとして注目されている「シャインマスカット」は、消費者から需要が高く、直売所等でも人気の商品です。また、空きハウスの活用や複合経営の品目として生産者も導入の意向が高まっています。

そこで普及センターでは、農業・園芸総合研究所で開発した収量の安定化、品質向上、省力化等の技術習得に向けて、管内での実証ほ設置や、JAや各直売所等と連携し、定期的に技術資料の提供を行う計画です。また、夏以降は研修会を開催し、技術向上支援や生産者同士の情報交換の場を作るとともに、このような産地の取り組みについて、消費者や実需者へのPR支援を行います。



シャインマスカットの短梢栽培の様子
(田所食品株式会社)

令和2年度春の農作業安全確認運動展開中！ (令和2年4月1日～令和2年6月30日)

【見直そう！農業機械作業の安全対策】

宮城県の農作業の死亡事故の過半数はトラクターが原因となっています。そのため、トラクター等の走行について、以下の点に注意しましょう。



- ①路肩の老朽化に注意！
- ②いねむり，脇見運転注意！
- ③作業時以外は左右ブレーキペダルを確実に連結！
- ④安全フレーム・キャブ付きトラクターの使用！
- ⑤シートベルト，ヘルメット着用の徹底！



令和 2 年度
亘理普及センター
職員紹介
 (職名・氏名・担当)



所長
山村 孝志
 (野菜)



次長 (総括担当)
櫻田 英子
 (農産物利活用)

先進技術班



技術次長 (班長)
齋藤 隆
 (作物)



技術主幹
小野寺 康子
 (野菜)



技術主幹
横田 悦子
 (経営・果樹)



主任主査
高橋 秀典
 (野菜・花き)



技師
鈴木 俊矢
 (野菜)



技師
浦郷 宣秀
 (野菜)



技師
松崎 航
 (作物)



パート職員
平岡 絵美
 (土壌分析)

地域農業班



技術次長 (班長)
吉田 敏幸
 (作物) <山元町>



技術次長
安達 裕美
 (畜産) <名取市>



技術主幹
片岡 信幸
 (野菜) <岩沼市>



技術主査
高橋 亮輔
 (作物) <亘理町>

**新型コロナウイルスに関する
 農業経営相談窓口の設置について**

宮城県では、県庁農業振興課、県内七カ所の地方振興事務所及び亘理・美里農業改良普及センターに、新型コロナウイルスに関する農業経営相談窓口を設置しました。

農業経営や融資制度に関する困りごとがあればお気軽にご相談ください。

宮城県亘理農業改良普及センター TEL 0223-34-1141

また、農林水産省の新型コロナウイルスに関する情報はこちらから
https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/index.html

令和 2 年度農薬危害防止運動の実施 【**農薬は安全かつ適正に使用しましょう!**】

(令和 2 年 6 月 1 日～令和 2 年 8 月 31 日)

毎年、農薬の使用に伴う使用者、周辺住民、家畜、周辺環境等に対する被害の発生事例や、農薬の不適正な使用により農作物から食品衛生法に基づく残留基準を超えて農薬成分が検出される事例が確認されています。農薬使用の際は特に以下の点に留意し、農薬危害を防止しましょう。

- ① 農薬の使用前には必ずラベルで作物名・使用方法を確認し、マスク等防護装備等に関する注意事項を遵守しましょう。
- ② 全ての農薬について、安全な場所に施錠して保管する等農薬の保管管理には十分注意してください。
- ③ 飲料用容器等への農薬の移し替えは誤飲に繋がるため厳禁です。
- ④ 住宅地周辺で農薬を散布する時は事前に日時は場所等を周知し、飛散防止を徹底しましょう。
- ⑤ 土壌くん蒸は必ず被覆し、周囲への拡散を防止しましょう。